

国際原子力発電人材育成と 中国・アジアの原子力発電プラント事情フォーラム

- 開催レポート -

去る2010年10月1日(金)一般社団法人日本技術者連盟 国際原子力発電技術移転機構(以下、本機構)の主催により、東京都千代田区にある中央大学駿河台記念館に於いて、「国際原子力発電人材育成と中国・アジアの原子力発電 プラント事情フォーラム」が開催されました。フォーラムには原子力発電の関係者100名以上が参加されました。



開会挨拶
国際原子力発電技術移転機構 委員長
佐々木 宜彦 氏

①始めに本機構の委員長であり、初代原子力安全保安院院長、現 財団法人発電設備技術検査協会 理事長 佐々木宜彦氏が挨拶されました。

本機構の紹介と合わせて現状を説明され、人材プール機関としての本機構の重要性と、今後のあり方としては人材のプールと教育、力量の認定を人材会社の協力を得て行っていくことについて話されました。

人材の需要先として中国に関して話され、出席者の方々に登録の呼びかけをされました。

②続いて本機構の委員であり、元東芝原子力開発部長、現 東京大学公共政策大学院 特任教授の諸葛宗男氏より、『人的資源の国際的プールの確立』と題して講演頂きました。

諸葛氏は「原子力」と「宇宙」の比較を通して、原子力の安全性と重要性を強調されました。

中国が製造だけではなく、規制当局側でも原子力人材が不足していることなど、大変逼迫している現状の話は、出席者から非常に注目されていました。

また日本の原子力人材は品質最優先の安全文化にこだわって長期間育成をしており、世界に誇るべきものとして積極的に伝えていくべきと強調され、人材プール機関としての本機構のミッションに触れました。



「人的資源の国際的プールの確立」
東京大学公共政策大学院 特任教授
諸葛 宗男 氏





**「原子力発電大国から
原子力発電強国への道を歩む中国」**
日本テピア総合研究所 副所長
窪田 秀雄氏



③次に日本テピア総合研究所 副所長 窪田 秀雄氏より『原子力発電大国から原子力発電強国への道を歩む中国』と題して講演 頂きました。

中国では「大国から強国」というフレーズが多いことの紹介から始まり、中国の原子力行政に深く立ち入った内容で、特に中国の原子力行政の課題や実情について話されました。

さらに中国でいう「強国」とは「海外に輸出できる」ことを指す言葉であることや、原子力発電所の建設費のファイナンスなど、原子力だけではなく中国での事業に役立つ情報を提供して頂きました。また人材については、「原子力」は「宇宙」の1/10程度しか研究志望者がおらず、中国国内でもニーズを満たせない状況であること、最後に中国のエネルギー問題は原子力に頼らざるを得なくなっていることに触れて、講演は終了致しました。

④最後に本機構の顧問であり、日本原子力学会シニアネットワーク会長の宅間正夫氏より閉会の挨拶を行い、以下の3つを強調されました。

一つ目は「原子力の国際展開」で原子力を賢く利用することで世界の平和に一步でも貢献すること。

二つ目は「品質」で日本の高い品質が評価され、現在の稼働の低下は技術以外が原因であること。

三つ目は「人材育成」で原子力のOB人材は、日本にとって重要な資源であり、世界に貢献出来ること。



閉会挨拶
国際原子力発電技術移転機構 顧問
宅間 正夫氏

多方面からの専門家による講演のため、時間的な制約もありましたが、フォーラムに参加者された方々は皆、興味深く講演を聴いており、閉会後も出席者同士の名刺交換や講師に積極的に質問され、大変充実した時間を過ごされたようでした。

ご来場ありがとうございました！